

1. 概要：

- ・初参加1名を含む総勢8名で「謙虚とはどういうことか」という問いを掲げて、主に、謙虚とどういうことか、謙虚は善いことかについて対話し、考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起

- ・進行役から、「謙虚さが近年忘れられている」等と「謙虚には価値がある」見方が日本社会にはあることを共有した上で、謙虚について考えたいと今日の問い「謙虚とはどういうことか？」を提起した。

(1) 謙虚とはどういうことか？その1

- ・仮にその人が自身を謙虚だと思っていなくても、他者にそれを言った時点でそれは謙虚な態度とは言えない。→一方で、他者にそれを言わずに自身の内心で思っているだけでは謙虚と呼べるか否かは分からない。
- ・自分としては他者に対して同じような態度を取って臨んでいるつもりでも、ある人からは「謙虚である」と言われ、また別の人は「謙虚ではない」と言われる。謙虚かどうかは人によって判断が分かれる。
- ・親が自分の息子のことを愚息と呼ぶ等は、他の外国には見られないが日本にだけ見られる光景である。謙虚という言葉を考えるに当たり、似たような言葉で謙遜という言葉があるが、これらは違うと思う。
- ・謙虚な態度ということを考え難ければ、謙虚でない態度というのはどういう態度かを考えたらどうか？→謙虚の反対の概念として思い浮かぶものは、次の2つがある。尊大：態度が大きい様子。威厳：堂々としている様子。謙虚の概念の背景には儒教の影響がある。謙虚とは、心を空にして(虚)へりくだる(謙)という意味である。「へりくだる」の反対は尊大で、「心を空にする」の反対は傲慢である。
- ・ほめられると謙虚になる。ほめられたときに「そうだ(自分はほめられて当然)」とは言えない。
- ・自身を謙虚であると思っていれば謙虚な態度ではない。自身を善い人であると思っているのと同じように変である。
- ・謙虚な態度とは、心を空(虚)にして自身の考えを変えることである。その前提には、特殊な例として、自然を相手に「人は自然に対しては謙虚であるべきである」という使い方もするが、一般的には自身と他者との人間関係を前提にしている。上下関係が前提なので、「上司の考えを部下は受け入れるべき」という文脈で使われることが多い。

(2) 謙虚であることは善いことか？

- ・謙虚でないこと=善くないことであり、謙虚であること=善いことであると言えるか？
→「謙虚でない」と言われることはあまり善くないことである(思われている)言われる場面が多い。
→本当にそうか。自身をほめられたときに、「そんなことはない」と返す態度は謙虚と呼ばれる態度であるが、「ありがとう」と返す態度でも悪くない。
- ・謙虚とは、自分の考えAが間違っていると想定して、相手の考えBを受け入れてみる態度である。
→それをやらないと組織の中では「謙虚ではない」と否定され、「生意気である」と判断される。
- ・娘は学校が嫌いなので学校の批判ばかりする。そういう状況を他の母親と共有すると「かわいそうに。もっと学校が楽しめればいいのにね」と憐れまれるが、私自身としては、娘に自由であって欲しいので、決して娘がかわいそうであるとは思わない。
- ・謙虚ではないが、哲学対話のルールを考える場で「謙遜は自由な対話の場では必要ない」という意見を聞いたことがある。謙遜は自由に対話するには相応しくない(必要ない)面があるかもしれない。一方で、謙虚に対してはそういう意見を聞いたことはない。
- ・謙虚という態度が善いか悪いかは、それが現れる状況による。

(3) 謙虚とはどういうことか？その2

- ・一旦は相手の考えを良く聴いて理解する。これが謙虚という態度である。(受け入れればもちろんだが)違っていると判断したら反論する態度である。
- ・謙虚の謙はへりくだるという意味であり、相手の考えを変えさせようとする態度である。
- ・謙虚とは別に、他者を公平、公正、対等に扱う態度があるが、それは相手を尊重するという態度である。一方の謙虚は、上下関係を前提にしている。
- ・謙虚は、英語で言う「Respect」がそれに相当すると思うが、上下というよりも(能動者に対して)受動的になる態度である。だから、受け入れるという一択しかない。
- ・謙虚か否かはあくまでも外側から見える態度に過ぎず、本当にその人が相手の考えを受け入れたか否かは含まれない。
- ・見かけからの判断だから限界があるかもしれないが、上下や能動受動の関係は公平や対等の関係性ではない。だが、それを踏まえても、謙虚が善いという考えを持つ人もいる。

(4) なぜ謙虚という概念がある(生まれた)のか？

- ・「親や先祖を敬え」という教えが昔からあるが、それがなく親類内の秩序が壊れてしまった歴史があり、秩序を維持するために生まれた(作り上げた)のではないか。
- ・会社の中で、上位職の人が謙虚に下位職の人に意見を聴くということはあるか？
→小さな会社では難しいのではないか。ある程度は大きな会社の中で、専門的な役割を与えられた下位職の担当者に対して上位職の人が意見を聴くときに、その上位職の人の態度が謙虚という場面はあり得る。

(5) なぜへりくだるときがあるのか？

- ・「へりくだる」とは相手に「素直に従う」ことである。素直に相手の考えを受け入れることで、その人間関係の中でトラブルを起こさず、良好に維持する効果があるからである。
- ・効果は分かるが、あまり波風を心配し過ぎず、意見が違うときはドンドン言った方が良い場合もある。

3. まとめ

- ・謙虚とはどういう態度かを考える裡に、なぜ謙虚という概念が生まれたか、なぜへりくだるのか、と問いを変化させて対話をした。問いの提起者としては、本対話を通じて、謙虚という概念に対して「善い」から「あまり善くない」判断へと考えが変わり対話を楽しめた。